

計測健康啓発協会・モビリティサービス協会
新たな「共同認証制度」開始

計測健康啓発協会（A・H・A・M、望月計代表理事、東京都中央区）とモビリティサービス協会（MSA、中島徳至代表理事、同千代田区）は、飲酒運転ゼロ社会の実現に向けた共同プロジェクト針を説明。冒

のクロネコ
メンバーズ
のアイコン
からでき
る。

協会による新たな
「共同認証制度」を
開始するとともに
全ト協と連携し、ア
ルコール・インタ

手帳「ミライロ」
2019年
からユニ
バーサルマ
ナー検定の
ミニナーを
取り組みを
く。

同社は、
ロック装置のモニ
ター調査や、全国6
都府県トラック協会
での飲酒運転根絶ヤ
ミナーを実施してい

全ト協との連携

デジタル
実施、障害
を持つ人が
利用しやす
める。6社のトラッ

いヤマト運輸営業所の監修などで連携してきた。22年には、ユニバーサルデザインガイドラインの策定や、荷物の受け取り・発送といった日々の業務に即したヤマトグループ独自の「ユニバーサルマナー検定」を共同で開発した。

（荒沼 淳）

酒運輸転絶セミナー

A H A M が専門とするアルコールの「検知・計測」とも M S A が専門とする「車両制御・社会実装」を組み合わせ、アルコール検知器、クラウド・システム、アルコール・インターロック装置・遠隔起動制御までを一連の仕組みとして確認。国交省の技術指針を踏まえた認証基準を適用し、その基準への適合性を両団体が審査して認証マークを付与する流れとなっている。正しくアルコールを検知できるか、車両制御が正しく連動するか、危険なタイミングで制御されないかなど、アルコール検知から車両制御まで

対策だけでなく、育や啓発にも重要。M S A も重要。M S A 携し、飲酒運転を目指して進めてい」と述べた。業者へのインターロック普及には、「メーカ企業努力や量によってコストが下がり、初めは補助金による支援が必要」と答えている。来賓からは、宗一郎デジタ臣兼内閣府副岩田和親内閣臣が出席し、挨拶を述べた。

(越後) レイアウト

つ大と大校 えよ階下果のてし事協た組口連と意教るた。に展。事A さて事飲社くみ回なこのク酒なが自理の を環運しと確。

タイヤコスト
削減の
救世主

0120-690-037



輸入元／株式会社ヨロズ物流



▲公式通販サイト

※見知りシュミレーションが出来ます